

アブレーション100例記念 報告会開催

近森病院循環器科部長 深谷 眞彦

中央が筆者の深谷眞彦部長と、発表者の要致嘉科長、北村聡子先生（高知大学）



2007年5月から RFCA 本格開始

今年には桜が早く開花しましたが、お城の桜が満開近しと報じられた3月19日の夜、アブレーション100例記念報告会が開かれました。

当院の循環器科で、頻拍性不整脈に対する高周波カテーターアブレーション治療（以後RFCAと略します）を本格的に開始したのは2007年5月でした。学会出席や祝日等でできない時もありましたが、毎週定期的に行なうことを目標にして2007年には23例、2008年には39例、2009年には51例の治療を行ないました。昨年は1日に2例というハードな治療日も時々ありました。

2009年には100症例突破

そして、2009年の10月には以前に単発的に行なった症例と合わせて100例に到達しました。今回の報告会の時点では123例になっています。この100例という区切りのよい症例数に達した時に、院内外で直接的間接的に関係してきた皆さんに感謝の気持ちを表すと共に、一度治療成績を総括して報告する機会にしよう企画されたがこの会です。

RFCAの症例数

RFCAは不整脈の根治（完全に治す）を目的にすることが多く、成功率が高

く、侵襲的治療の中では事故や合併症発生が稀なことから、近年広く行なわれている治療法です。日本不整脈学会が2008年から症例登録と追跡調査を開始していますが、昨年末時点での2008年と2009年の2年間の合計登録症例数は5,772例（初回例のみ）で、合計登録施設数は217施設でした。

RFCAの実際と治療成績

報告会では、まず北村聡子先生（高知大学総合診療部、当科非常勤医師）

が全体の88%を占め、他は心室頻拍8例、頻発する心室期外収縮5例、心房細動（熊谷浩一郎先生招聘時）2例でした。患者さんの年齢は20歳から91歳の高齢者にまで広く分布していました。全症例では96%の急性期成功率でしたが、再発などのために2回目のRFCAを7例に行っています。心房粗動では、合併する心房細動の治療のために11例で抗不整脈薬を継続（ハイブリッド治療）していますが、その多くで心房細動の管理が楽になっています。なお、RFCA施術時の合併症ですが、術後に動脈性内出血のために軟部組織に大きな血腫ができた高齢者1名を除くと、事故もなく問題になるような合併症もありませんで



がRFCAについて解説しました。動画を含む多くの図を呈示しながら、当科で治療対象にしている頻拍性不整脈（発作性上室頻拍、WPW症候群、心房粗動、心房頻拍、持続性あるいは非持続性心室頻拍、頻発する心室期外収縮など）のRFCAの実際を判りやすく話してくれました。近森病院では、昨年にCARTO-XPシステムという心臓の電氣的興奮の拡がり方を解剖学的な構造と一致させて3次元的に表示する最新鋭の画像システムを購入しました。さらに難度の高い不整脈の治療も可能になってきています。

次いで要致嘉^{かなめりのよし}循環器科長が当科の治療成績を報告しました。対象はWPW症候群を含む発作性上室頻拍が50%、心房粗動・心房頻拍が38%とこれら

した。

まとめ

当科ではひとつのチームでいつものスタッフが丸くなって治療していますので、手際もよく、全国的にも恥ずかしくない成績を出していると感じています。

こうしたことは直接関係する多職種の職員のみならず、院内外で関わるたくさんの職員や関係者の協力があるからこそできることですし、近森病院としての支援、高知大学の協力、また、患者さんをご紹介いただいている多くの先生方のご支援があったことです。この機会に心から御礼申し上げ、さらなるご協力ご支援をお願いいたします。

初期臨床研修医修了式を終え



臨床研修管理委員会委員長
近森病院循環器科主任部長 川井 和哉

3月26日に20年度研修医修了式が行われました。当院の初期研修医3人が2年間の研修を終え、元気に巣立っていきました。毎年のことですが、研修が始まったころの初々しさ、研修途中の厳しい顔、笑顔、泣き顔、そして終了間際の自信に満ちた顔を思い出し、感無量でした。当院に残る者、母校に戻る者、新しい施設に行く者と、選んだ道は違いますが、それぞれが自分たちの

未来を見つめ決めた道です。当院で培った力を元に頑張ってくれるものと信じています。

また、4月から新しく初期研修医が4人、後期研修医が2人、仲間に加わりました。当院は急性期病院、地域医療支援病院であり、救急疾患や一般的疾患を多く経験することができます。同一疾患のバリエーションをたくさん経験することで、臨床医としての能力は飛躍的に伸びます。そして、当院の特徴である、チー

ム医療、コメディカルスタッフのフットワークの軽さと高い能力、急性期から在宅までのシームレスなケア、地域医療連携などを学ぶことは、医療人として今後の大きな財産になると思います。

当院を卒業した研修医の県外での活躍も耳に入ってきています。全国での活躍は当院研修の伝統を感じ、嬉しく励みになります。楽しく有意義な研修生活になるよう、病院をあげてお手伝いしたいと思います。



左から北村副院長、川井主任部長、初期研修医の濱田Dr、近澤Dr、長谷川Dr、浜重副院長、八木部長

修了式を迎えて初期研修医のみなさん

あの頃、あの日、僕は…

●長谷川 義仁

右も左も分からないままスタートを切った2年前。電子カルテの記載一つ、指示の一つもろくにできないまま病棟をドキドキ、ビク



ビクしながら仕事らしきことを日々繰り返していたあの頃。カルテは人の記事を参考にしつつまるでコピーをしたかのような記事を書き連ねていたあの頃。初めて夜中に病棟の患者さんのことで呼び出され何事もないようにと必死で祈りながら走って病院まで駆けつけたあの日。

焦って早口になりながら挙動不審に初診の患者さんの問診をとり、震える手で診察をした初外来のあの日。

どんな患者さんが来るのか不安でしょうがなく、そんなに忙しくなかったのに一睡もできなかった初当直のあの日。

重症の患者さんを担当し夢にまででてきたあの頃。助けられなかったあのとき。ご遺族が号泣しているのをみていたあのとき。

不安と後悔とくやしさが混じり身動きがとれず、それでも頑張ろうと思ったあの頃。

調子いいですよといわれたあの日。

ありがとうといわれたあのとき。

なんだか明日もがんばれそうな気がしたあの日。

いろいろとあっていろんな人に迷惑をかけてきましたけどこれからもよろしくお願いします。

お世話になりました

●濱田 佳寿

2年間本当にお世話になりました。期待と不安に胸をふくらませて近森病院に入職した2年前が、昨日のこのように思い出されます。

2年間を振り返りますと、初期研修医3人の中では喜怒哀楽が最も激しかった研修医だったと思います。本当にかわいがっていただき、ありがとうございました。

近森病院では、学生の頃には知り得なかった、臨床の厳しさや技術面、診断をつけることの難しさや検査の意義、I.C.の仕方、コメディカルとの関わり方やチーム医療の重要さなど、たくさん学びました。期待以上の研修をさせていただき、本当に充実した2年間でした。今後自分が理想とする医師になるべく、突破しなければならない課題もたくさん見つかりました。正直、



後悔も少なからず残っております。

4月からは高知大学に帰ります。近森病院に恩返しができるよう、一回りも二回りも成長したいと思っております。きっと再び今まで以上に、喜怒哀楽が激しい生活が始まるんだと思います。しかし、そういう経験をしているということは、自分が何かを得ようとしている証拠なんだと信じて、頑張ります。本当にありがとうございました。

行ってきます

●近澤 悠志

この二年間でお世話になった皆様方には何とお礼を申し上げたいでしょうか。本当にありがとうございました。医療行為を行う環境、楽しい生活を送る環境に恵まれた日々だったと思います。自分が生まれた場所で勉強させていただけたことは何より幸せでした。

私はまだまだ未熟であり、これから無限にやるべきことがあります。これまでに得た経験を大切にしながら、精進していこうと思います。

誰かの力になれる日を夢見て、胸を張って再びお目にかかる日を夢見て。気が済むまで行ってきます。



第64回地域医療講演会報告

精神保健医療福祉の 更なる改革に向けて

第二分院事務長 和田 廣政



後列左から萩原看護師長、川添管理部長、筆者、武田看護師長、前列左から(社)日本精神科看護技術協会の仲野栄専務理事、講師の野崎伸一先生、第二分院の明神院長、宮崎副院長

講師の野崎伸一先生



平成22年3月20日土曜日、近森会管理棟において厚生労働省精神・障害保健課の野崎伸一課長補佐により「精神保健医療福祉の更なる改革に向けて」をテーマに地域医療講演会が開かれました。

講演では精神保健医療福祉のこれまでの取り組みから、現状、精神医療の体系、入院医療の課題、精神医療の質の課題、改革の方向性について資料・統計データを基に分かりやすく講演して下さいました。

統合失調症入院患者が将来推計で10年後、5万人減少しその後も減少し続け、代わって躁うつ病などの気分障害、アルツハイマー病が増加するなど大きく変化してきています。

精神科医療はマンパワーの充実と医療水準の向上をはかり、病床の機能分化と在宅地域ケアサービスを更に充実

させていくことにより「入院医療中心から地域生活中心へ」という改革の基本理念を推進していくことが求められていました。

県内の医療機関・行政関係者など70名を超える参加をいただき盛況のうちに閉会することが出来ました。

○ 診療報酬改定 ○

平成22年度の改定にあたって

近森会グループ管理部長 川添 昇



昨今、「医療崩壊」の危険がいわれているが、そのような背景での今回の診療報酬改定は、重点課題として「救急医療等の再建」や「医療従事者の増員に努める医療機関への支援」などが取り上げられている。

救急医療を一生懸命頑張り、優秀なスタッフを集めてチーム医療を行い、専門性を高めて効率的な医療を展開している医療機関に、診療報酬を手厚く配分する改定ともいえる。これまで近森会グループは救急、リハビリテーション、さらには栄養サポートチームなど多数の専門性の高いスタッフにより急性期からリハビリテーション、社会復帰までの連続性を持った医療を行ってきたが、今回の改定でこのような部分でかなり高い評価をいただくと期待される。

近森会グループがこれまで行って

きた、医師は医師としての専門性を発揮するためのチーム医療や、医師事務の補助体制、さらには看護師の負担軽減としての看護補助者配置などのシステムが、DPC（包括払制度）のなかで係数となって評価されたり、亜急性期や回復期でのリハビリテーションの更なる評価を受けたことも嬉しい結果に繋がってきそうである。

志の高い医師をはじめ医療スタッフに現場でいかにやりがいをもって働いていただくか、そうでなければいつ立ち去られるかという危機感を持って運営にあたってきたことが、やっと評価され始めたのではないかと思う。病院にとっての顧客である職員、国・保険者、患者さん、地域の方々に対して、常に満足していただけのような医療機関であり続けるよう努力して行きたいと思う。

聴診器と私

近森リハビリテーション病院（以下・リハ病院）に入院してくる患者さんはほとんどが脳卒中。病状が安定しているとはいえたくさんの合併症を抱えて入院して来られる。リハ看護師に求められるもの、それは『観察力』。患者さんの顔を見て、身体に触れて、音を聴く。医療機器がない分、使えるものは全部使って観察する。患者さんと話し、身体に触れる。

肺炎のリスクの高い患者さんには胸

ホントに必需品？

近森リハビリテーション病院

3階東病棟看護師長

中越 由紀

部、便秘の患者さんには腹部、嚥下障害のある患者さんには頸部に聴診器を当てて音を聴く。地味かもしれないがリハ病院の看護は『見る』こと。聴診器はリハ看護の必需品のひとつである。

リハ病院の患者さんは、ADLに介助を必要とする。患者さんの身体に当たらないように、聴診器を床頭台の上に



置き移乗介助を行う。で、そのまま忘れて行方不明。必需品のはずなのに、度々行方不明になる私の聴診器。

リハ看護歴13年、聴診器を探しまわる日々。置き去りにされたラベンダー色の聴診器を見かけた方はご連絡ください(笑)。

新病院建築に向けての講演会

より人間的な

医療福祉空間のために

3月26日、アメリカ人医療アメニティデザイナーのジェリィ・フォリー (Jeri Foley) 氏をお迎えして「医療デザインの心理と生理 (人間・環境・美)」について刺激的なスライドを見ながらの研修会をもちました。

ことの発端は、毎年職員基本研修 (PS = 患者満足) でお世話になっている江藤かをる氏から、ぜひともヒーリング・インバイアロメント (Healing environment) 「良好な療養環境は患者の回復を早める」という考え方でトータルなシステムをとりいれているフォリーさんのお話を聞いてみませんかというお誘いで企画がされました。

一言でいうと単なる癒しレベルではなく心理的・カウンセリング的なサポートを可能にする建築、外光をできるだけ活かした設計、高齢者や障害者など人間を無意識的に目的地に導く色彩計画とウェイファインディングデザインの標示、案内板、照明などについて研究や実績の一端を紹介していただきました。高機能な急性期病院がどう表現されて患者さんにも働く人にもやさしい空間かできるか、お金を抜きに



して、想像する楽しみを味わった時間でした。(統括看護部長 梶原和歌)

お知らせ

第1回近森病院・国立病院機構高知病院合同バス大会
「退院調整のパス」
平成22年5月22日(土)
10:00~12:30
高知県ふくし交流プラザにて

第217回高知市医師会生涯教育カンファレンス
「ぜひ知ってもらいたい根治できる不整脈」
平成22年5月27日(木)
19:00~
総合あんしんセンター3階大会議室
(高知市民病院跡地)にて

第13回公開県民講座
「百聞は一見に如かず！
~健全な臓器と病気の臓器の話」
平成22年6月5日(土) 14:00~
高知RKCホールにて



父親のハートを
を掴む娘



訪問看護ステーション
ラポールちかもり 藤近 利早



写真は、3月半ばに院内保育園のお別れ遠足でイチゴ狩りに行った時のものです。

前夜から主人が張り切ってお弁当作りに精を出し、娘の好物ばかりを入れたのですが、当の娘はお弁当前のイチゴ狩りで大満足をし、この中身はほぼ私の胃袋に消えることに……。

それでも家に帰ると真っ先に「おとーしゃん、おべんといっぱい食べたきね、おいしかったよ」とお上手を言い、イチゴのお土産を渡してちゃっかりお父さんのハートを掴んでました。恐るべし、二歳児！

Chikamori ★ Kitchen 3 第4回のメニューから

手づくりナンとカレー



第二分院管理栄養士 川崎 麻由

ほんのりとバジルが香るナンは、カレーとの相性ぴったり。ピーマンとトマトの色が鮮やかなカレーは、炒めたり煮込む時間が短くても、とろ〜り味わいある仕上がりになります。いつもとちょっと違ったカレーもたまには良いかも？

材料 (1人分)

●手作りナン

- ・強力粉 90g
- ・すりごま 10g
- ・バジル粉 1g
- (A) ・ベーキングパウダー 小さじ1
- ・マヨネーズ 大さじ2
- ・飲むヨーグルト 40ml

●カレー

- (B) ・ヨーグルト 100ml
- ・牛乳 50ml
- ・濃口醤油 大さじ1/2
- ・カレー粉 小さじ1
- ・水 50ml
- ・小麦粉 小さじ2
- ・唐辛子、ガーリックパウダー、塩少々

- ・豚バラ肉 50g
- ・ソーセージ 1本
- ・玉ねぎ 小1/2個
- ・エリンギ 中1/2本
- ・水煮豆 15~20g
- ・ピーマン 小1個
- ・トマト 小1/2個
- ・鶏がらスープの素 適量
- ・塩 少々

作り方

手作りナン

- ① (A) をボールに合わせ、飲むヨーグルトを少しずつ加えて木べらで混ぜる。まとまってきたら、手でよくこねる。
- ② ボールにラップをして、触れるくらいのお湯で湯せんにかけて、20~30分おく。すこし膨らんできたら、軽く強力粉をまぶして、丸く広げる。
- ③ 油をひいたホットプレートかフライパンで、蓋をして両面こんがり焼く。

カレー

- ① ソーセージ、玉ねぎ、エリンギ、ピー



手作りナン・カレー・パリパリサラダ

マン、トマトを切り、水煮豆をさっと洗っておく。

② (B) を鍋にあわせ、①のソーセージ、豚肉、玉ねぎ、エリンギを混ぜ合わせ火にかける。

③ 肉に火が通り、トロミが付いてきたらピーマンを加え、ピーマンに火が通ったら、トマトを加える。

④ 塩と鶏がらスープの素で味を整える。

新人紹介

新人の皆さんのコメントは写真の前列向かって左からの順番となっています。数字は①所属②出身地③最終出身校④家族や趣味のこと、自己アピールなどを示します。



山本憲治

やまもと けんじ

①近森リハビリテーション病院医師②高知市③北海道大学医学部④50歳を越えて回復期の勉強をさせていただきます。何とかがんばります。

ます。



山本修

やまもと しゅう

①心臓血管外科医師②愛媛県西条市③岡山大学④ポーランドに一年半住んでいました。素敵なお国です。



市川博源

いちかわ ひろもと

①内科医師②高知県③近畿大学医学部④最近トレイルランニングを始めました(まだ一回だけですが)



前田和茂

まえだ かずしげ

①整形外科医師②香川県坂出市③近畿大学医学部④趣味は映画鑑賞、読書、料理等インドア派です。最近では自転車を購入したので暇があれば高知市内を散策しています。

あれば高知市内を散策しています。



濱田暁 はまだ あきら

①麻酔科医師②大阪③高知医科大学



須賀楓介

すが ようすけ

①精神科医師②広島県③高知大学医学部④医師、患者同盟を築き、問題解決を図る診療を目指します。趣味はサクスを吹くことです。

暇な時間にはいつも音楽を聴いてアドリブを考えています。



岩永紘征

いわなが ひろゆき

①形成外科医師(後期研修医)②大阪市③大阪医科大学④初めての高知です。早く馴染めるように努力します。



古川大祐

ふるかわ だいすけ

①循環器内科医師(後期研修医)②愛媛県③筑波大学④今年までできるだけ運動したいです。



研修医

石井 洋介 いしい ようすけ

①初期研修医②神奈川県横浜市
③高知大学④国試終了後、座り
過ぎたためか、痔になりました。
何か変な歩き方・座り方をし
ている時は痛い時です。温かい目
で見守って下さい。

山本 亜希 やまもと あき

①初期研修医②高知市③高知大
学④高知県生まれ高知育ちの土
佐っ子です。音楽を聴いたり、

ピアノ演奏、そして合氣道を愛しています。
最近お酒に弱くなりました。

村岡 朋美 むらおか ともみ

①初期研修医②高知県土佐市③高知大学④
大学時代は陸上と合氣道に励んでおりました。
そこで学んだことを活かしながら、誠
意をもって進んでいきたいと思ひます。

竹村 光広 たけむら みつひろ

①初期研修医②高知県土佐山田町③高知大
学医学部医学科④昨年結婚し、3月には長
男も誕生しました。「公」も充実するよう
がんばります。

交友録エッセイ



ちかもりの風

社団法人高知県看護協会

こうち看護協会訪問看護ステーション所長
森下 幸子

今回、交友録エッセイのお話をい
ただき、近森会との長いご縁を懐か
しく振り返っています。私は岡山県
出身ですが、昭和61年6月近森会
に入職しました。

現在の近森会は高知県の医療と看
護をけん引するすばらしい病院です
が、当時はまだ付き添い看護の時代
でしたので、病院の中に生活する付
き添いさん、道路や喫茶店に患者さ
んがいらしたりと（今では考えられ
ないと思いますが）驚いたり、泣い
たり笑ったりしながら「看護を看護
師の手に」、「救急からリハビリテ
ーションまで」を合言葉に職員が自ら
と病院の両方の変革に立ち向かって
いました。

私自身は昭和62年から訪問看護
に携わり、会議では「それは看護な
の？」と絶えず多職種で議論しあ
ったことを思い出します。平成8年
に退職し、子育て中に臓器移植コー
ディ

ネーターを拝命し、平成11年高知
赤十字病院での日本初脳死下臓器提
供に関わりましたが、看護観や死生
観を問いなおしたいと大学で家族看
護を学び、遠回りしましたが訪問看
護に復帰しました。

現在は市内から室戸まで訪問看護
に走りまわる日々ですが、ステー
ション管理をするようになって改め
て自分の看護にちかもりの風（精神）
を感じています。

あくまで生活を中心とした看護へ
こだわり、24時間365日、生から
死（看取り）までの看護を目指す、
人を動かすのは人、何事も段取りが
8割・・・と近森で教えられ染みつ
いた言葉が今でもあふれてきます。

これからも近森会のみなさんに刺
激をもらいながら、15人の看護師、
理学療法士の仲間と心のこもった訪
問看護を続けたいと思っています。
（感謝）

看護部 **キラリと光る看護 part2**患者さんの
ひとつひとつの思いに応えたい

近森病院看護部長 久保田 聡美



2010年の診療報酬改定は、当院にとって大きな変化をもたらしました

看護の新人教育について

近森病院教育専従シニア看護師長
川村 久美子

保助看法（保健師助産師看護師法）の改正により、新人看護職員の卒後臨床研修が努力義務化になった。当グループでは3年前から新人教育担当者を育成している。彼らが中心となって、新人看護職員研修に関する企画・運営を行い、プリセプターへの助言、新人看護職員への指導が行われている。プログラムは厚労省「新人看護職員研修ガイドライン」に基づき近森グループの新人として必要な知識、技術、態度を身につけられるものになっている。

まずは就職時研修として、臨床現場で実施するケアや基本的な看護師としての姿勢などを中心に8日間の集合研修を行い、以後は毎月の到達目標に応じた研修を集合教育で実施する。点滴静脈注射や輸液ポンプの研修は、毎年テルモ社協力によりシミュレーション教育を2日間かけて実施しており、今年度は研修医も合同で開催する。

1年後にはケースレポートをまとめ、その成果を発表し当グループのクリニカルラダー「レベルI」が修了となる。今後は新人看護職員研修だけでなくラダーに応じた研修の充実を図り、看護の質向上を目指したい。

た。近森のデータを基に実現したといわれるNST加算をはじめとして、チーム医療推進のインセンティブとなる改定が目につきました。看護部も4月からの新人受け入れと並行して様々な変化への対応を迫られました。その中でも本院看護部の責任者としていろいろと学びの多かったのが、看護補助者の方の問題でした。

皆さんもご存じのように、当院では以前から「アテンダント」「クラーク」、最近では「ポーター」という職種も増えて、様々な場面で看護師のサポーターとして活躍してくれていました。

その取り組みが「看護補助者」という枠組みで診療報酬でも評価されることになったのです。必要に迫られ創りあげてきたシステムが評価されるのは嬉しいのですが、いざ届け出となると煩雑な手続きが増えてしまうのは痛しかゆしです。しかし、今回それらの手続きを通して、看護補助者の皆さんの生の声を聞く機会に恵まれ、看護部長としても数多くの気づきを頂きました。

「忙しくて患者の思いに充分に応えられていない」「(雑用に追われ)もっとケアをする時間をとりたい」という声を聴いた時には、正直はっとしました。急性期の忙しさの中で医師の診療の補助業務を優先しがちな私達看護師が一番忘れてはならない大切なものを看護補助者の方に気づかされた思いでした。そして、そんな熱い思いを持ったスタッフを看護部の新しい仲間として迎え2010年度のスタートに立てたことが何よりうれしい出来事でした。

数字でみる近森会グループ 2009 年度の実績 作成/診療支援部 山崎啓嗣

職員数（グループ全体）

1,464人

('10年4月現在)

委託を含む実質的な職員規模は約1,700人となります。

このように多くのスタッフでチーム医療を展開し、日々、患者さんをサポーターとしています。

診療年数（昭和21年～）

64年 ('10年)

昭和26年より医療法人、昭和33年より救急告示病院として急性期医療を中心に地域医療の一翼を担ってきました。

本年1月1日より公益性の高い社会医療法人としてスタートしました。

ひろっば発行部数

42,000部

/1年間

ご覧の『ひろっば』は、1986年に創刊され、今年で誕生24年目になります。1カ月あたりの発行部数は、現在3,500部になります。

●平成15年BHI賞●
最優秀賞受賞

【近森病院】

延べ外来患者数

13万人

('09年度)

地域医療支援病院として地域に密着した医療を展開しています。

外来患者さんは1日平均（平日）400人を超えます。

【近森病院】

延べ入院患者数

12万人

('09年度)

急性期病院として一般病床338床を確保しています。

常時入院中の患者さんは、平均で330人になります。

【近森病院】

救急車搬入件数

4,800件

('09年度)

救急告示病院であり、年間の救急車受入件数は、約5,000件です。

1日では、平均14台の救急車（急患）を受けられています。

【近森病院】

退院患者数

7,500人

('09年度)

近森病院に入院されている患者さんの平均的な入院日数は、15日～16日。

年間では7,500人の方が退院されています。

【近森病院】

手術件数

4,700件

('09年度)

近森病院では、一刻を争う患者さんの受入れが多く、手術件数は1年間で5,000件近くになっています。これは日曜、祝日関係なく、1日あたり約13件の手術数です。

【近森病院】

院内救急車出動件数

150件

('09年度)

院内救急車を2台保有、東西に長い高知県の実情に合わせた救急応需体制を確立しています。

(医師同乗での出動実績)
ドクターカー 74件
/ '09年度

“まごころある医療”を

循環器科部長 關 秀一

1998年4月に循環器専門医として近森病院に赴任して、丸12年が経過しました(後期研修医として1年間研修もさせていただきました)。その間、2000年に心臓血管外科、2002年にはハートセンターの開設と、浜重副院長をはじめとする循環器チームの成長を間近で体感し、微力ながらこれまで参画できたことは大変光栄なことだと思っ



看護師長就任の抱負

新館3階西病棟看護師長 森本 志保

地域医療連携室からの異動となり、4月より看護師長として3階西病棟に配属されました。病棟に戻った当初は、以前より忙しく慌しくなっていた病棟の状況に戸惑いを感じていましたが、少しずつ慣れてきているところです。



3階西病棟は手術や入院、退院の件数も多いですが、そのような中でも病棟スタッフは、いつも明るく元気に仕事をしています。看護師長として私に何ができるのか考えていますが、入院された患者さんが安心して治療が受けられ、急性期の治療を終えられた患者さんが、その人らしい生活を送

笑顔とやさしさを忘れずに

新館5階西病棟看護部主任

筒井 弘美

私の初めての配属は5階西病棟でした。17年たった今でも、当時のことをはっきりと覚えています。ピカピカの新館と新しい看護体制の中、忙しいながらも和気あいあいと、しかしケジメはしっかり活気あふれる職場でした。厳しい婦長さんに少し脅えながら、先輩看護師に助けられ伸び伸び育ててもらいました。リーダーナースは時々厳しく、そして優しく的確なアドバイスをくれ、病棟のムードメーカーでもありました。そんな先輩たちを目指して、数年。今の私はどうでしょうか？



急性期を極めたいとの私の希望どおり、集中外来系を中心に勤めてきましたが、今回13年ぶりに古巣外科病棟に帰ることになり、新たな気持ちでがんばりたいと思っています。私自身主任一年生ですが、常に優しさを忘れずに、後輩の指導や看護に努めたいと思います。

気負わず、あせらず、マイペースで、目指せグッドスマイル。

乞！熱烈応援

ておりました。私にとってのホームグラウンドであるこの病院で、4月1日から循環器科部長を拝命し、その責任の重さを感じながら、身が引き締まる思いで日々の診療にあたっております。患者さんや院内スタッフに信頼される“まごころある医療”を提供し続けることによって、循環器科ひいては近森病院に貢献できればと思っております。皆様には今後共これまで以上の御支援と御助言を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

れるような退院支援していくことやひとり一人のスタッフがいい看護が提供できるような病棟の環境づくりをしていくことが課題かな、と思っています。

今後も皆様のご協力を頂きながら頑張っていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

外来看護とチーム医療

放射線科看護部主任 高松 絵里奈

近森病院放射線科で勤務し、約3年になります。今まで病棟勤務しか携った事のない私は、圧倒的に少ない情報量で患者さんを見る外来部門の仕事に戸惑う毎日でした。



先日、チーム医療についての他施設の発表を聞きました。「他職種を理解し、それぞれの職種が専門性を発揮し、質を高める

利用者・家族に寄り添う

訪問看護ステーションちかもり所長

(看護部主任) 中西 洋子

6年ぶりに相談業務から看護の現場へ復帰しました。6年前訪問看護に携わっていた時の利用者が約2割5分継続利用されています。どの利用者も大切な家族と充実した穏やかな日々を過ごされています。在宅で療養生活を継続するためには、利用者様の希望やご家族様の介護力、訪問看護をはじめとする多職種の協業が不可欠です。利用者様、ご家族の気持ちに寄り添いながら住み慣れた地域・家で安心を届けることができるように支援していきたいと思ひます。



また、訪問看護ステーションちかもりの18年間の実績を振り返り、今後の課題を明確にし、利用者様と地域から真に必要なとされよう、スタッフと共に努力していきたいと思ひます。

事が最終的に患者さんに良い医療を提供できる」と。看護師が、看護をするためには他職種の理解も必要です。そういった環境を整えていく事で、外来部門の看護の幅はもっと拡大できるのではないかとと思ひます。

「向上心」私の好きな言葉のひとつですが、その気持ちを忘れず、職種の専門性が発揮できる職場作りに貢献したいと考えています。まだまだ力不足ではありますが、皆様ご指導よろしくお願ひいたします。

よき友くすし

3

～身につけよう！

効果的な吸入薬の使い方～

薬剤部 毛利 良子

これまで、吸入薬の使い方について患者さんに説明する機会が何度かありました。そこで今回は吸入薬についてお話しさせていただきます。気管支喘息治療の吸入薬には、発作予防のため定期的に吸入を行うものと、発作の時に使用するものがあります。

発作予防の吸入薬には次のような種類があり、数種類が一度に処方される場合があります。

- ①交感神経にはたらいって気管支を広げるお薬(β刺激薬)
 - ②副交感神経にはたらいって気管支の収縮を抑えるお薬(抗コリン薬)
 - ③炎症を抑えるお薬(ステロイド薬)
- では、どういう順番で吸入するとよいのでしょうか。

特に医師の指示がなければ、①→②→③の順に吸入してください(2種類使用の場合も順番は同じです)。始めに①のお薬を吸入して気管支を広げておくと、次のお薬がより多く行き渡ると考えられます。吸入の間隔は数分間おくとよいでしょう。吸入後は口の中に残ったお薬を洗い流すため、必ずうがいをしてください。発作の時の吸入薬は使いすぎると心臓に負担がかかる場合がありますので、必ず医師の指示通りに吸入してください。

処方された吸入薬の種類をもう一度見直して、より効果的な使い方を身につけましょう。



5月の歳時記

紅色の薔薇



文、絵・匿名希望

バラは花の女王にふさわしく人類を魅了し続けてきた花です。結婚する前の話ですが、時折、駐車場の私の車のワイパーに真っ赤なバラの花束が置いてありました。私のご機嫌が悪いと、必ず車のワイパーにバラの花束があったように思います。紅色のバラの花言

葉を調べると、「愛情、美、情熱、熱烈な恋、あなたを愛します、死ぬほど恋いこがれています」でした。夫に聞いてみると「どうして花束を置いたのか忘れた」と言いますが、いまでもやさしい夫です。

さんが

◆ 3月10日 山下水津規さん（手術室看護師）と橋本智弘さんが

図書室便り (2010年3月受入分)

- ・今日の治療指針 私はこう治療している 2010 volume.52 / 山口徹 (他監修)
- ・一目でわかる微生物学と感染症 第2版 / STEPHEN H.GILLESPIE (他著)、山本直樹 (他監訳)
- ・クリティカルケアにおける栄養管理 / 平澤博之 (編集)
- ・医療事故削減戦略システム～事例から学ぶ医療安全～ / 日本医師会 医療安全対策委員会 (編集)
- ・明日の医療に活かす DPC データの分析手法と活用 / 藤森研司 (他編集)
- ・第40回日本看護学会論文集 成人看護Ⅱ・老年看護 / (社) 日本看護協会 看護教育研究センター (編集)

《別冊・増刊号》

- ・別冊 医学のあゆみ ウィルス性肝炎—最新治療コンセンサス / 溝上雅史 (編集)
- ・別冊 医学のあゆみ がん診療連携拠点病院—レベルアップのための事例集— / 畠清彦 (編集)
- ・神経内科特別増刊号 認知症診療マニュアル / 『神経内科』編集委員会 (編集)
- ・老年精神医学雑誌 増刊号 - I アルツハイマー型認知症—この10年とこれから— / 『老年精神医学雑誌』編集委員会 (編集)
- ・関節外科 基礎と臨床 4月増刊号 研修医のための運動器リハビリテーション / 筒井廣明 (企画・編集)

編集室通信

『龍馬伝』土佐人としてはもの申したいことまあまりながらも、毎週楽しみに観ています。桂浜、日曜市などはずいぶん観光客が増えている様子。私が意外だったのは夜の龍馬生誕地。仕事帰りに碑の前を通ると、居るのです、若者たちが。三々五々、互いに写メを撮りあったり、何も語らずじっと碑を見上げていたり。誰も騒いでいない薄暗がりの中の時間が、彼らには大切な高知の思い出になるのでしょうか。胸の内で「頑張れ！」と声掛けて、家路に着く私です。(ひょん)

2010年3月の診療数

近森会グループ

外来患者数	18,263人
新入院患者数	792人
退院患者数	793人

近森病院

平均在院日数	16.31日
地域医療支援病院紹介率	81.01%
救急車搬入件数	392件
うち入院件数	203件
手術件数	402件
うち手術室実施	280件
→うち全身麻酔件数	173件

企画情報室